

成長の限界シナリオ

ローマクラブをご存知だろうか。資源、人口、経済、環境破壊、軍備拡張など、地球的問題に対処するため、世界各国の科学者、経済人、教育者など各分野の研究者が集まり、1970年に設立された国際的シンクタンクで、イスに本部がある。

その第一報告書は、米マサチューセッツ工科大学を中心とする学者グループが1972年に発表した「成長の限界」という論文である。

概要は「現在のまま人口増や環境破壊が続けば、資源の枯渇や環境悪化で、100年以内に人類の成長は限界に達する」と警鐘を鳴らした内容で、世界に衝撃を与えた。日本では大来佐武郎氏が監訳しているが、同クラブ設立の年は大阪万博の年で、論文発表はまさにわが国高度成長真っ只中の時代だった。

インターネットで検索すると、「ローマクラブ成長の限界、40年後の検証」というタイトルの項目は、以下のような文章で始まっている。

「40年前に提出されて物議を醸した論文―成長の限界―の結論…『世界は破滅へのレールを進んでいる』は、近年の研究でやはり正しかったこ

とが検証された。オーストラリアの物理学者グラハム・ターナーは、振り返ってみると、1970年代において最も偉大で画期的な学問的業績は『成長の限界』であると述べている。

「成長の限界」の中では「今年までの現実のデータと、成長の限界」の今のやり方のままのシナリオを比較した。

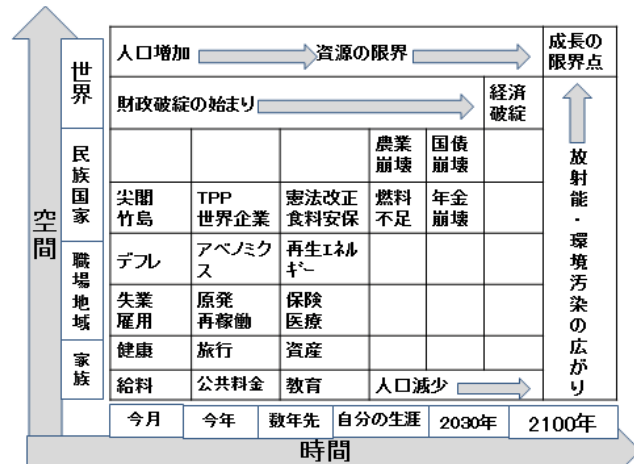
その結果、現実の予言にほぼ沿って進んでいることを見出した。ターナーはこう言う。

「ここでは警告の半鐘の音が明らかに鳴り響き続けている」「私たちは持続可能な軌道から外れている」

このまま80億人の人口増加が進めば食料が不足する↓食料が不足すれば大規模化や遺伝子組み換えなどの技術により食料を増産する↓食料を増産すれば大量の石油エネルギーなどの天然資源を消費する↓天然資源を消費すれば地球温暖化などの環境汚染が拡大する↓環境汚染が拡大すれば食料増産のための耕作地と収穫量が減少する↓収穫量が減少すれば食料不足になり人口は減少する。

農業と国土

NPO 生物多様性
農業支援センター
理事長 原 耕造



未来の問題に思いを

この持続可能性の崩壊シナリオが「成長の限界」の構図なのだ。

この論文の最初のページに書いてあることは「人間の視野」である。世界中のすべての人は、それぞれ注意と行動を必要とする一連の関心事と問題を抱えている。

あらゆる人間の関心はどれくらい地理的広がりを持っているか、どれくらい時間

的な広がりを持っているかに従って、グラフ上のどこかの点に位置づけることができる。殆どの人々の関心はグラフの左下方に集中している。

私たちの視野はどうなっているか、現在わが国で問題視されている様々な課題やテーマを、時間を今月、今年、数年先、自分の生涯、2030

年など横軸とし、空間を家族、職場・地域、民族・国家、世

界として縦軸に取り、その中に身近な関心事の項目を、私なりに落とし込んでみた。

主な項目は、給料／公共料金／教育／健康／旅行／資産

／失業・雇用／原発再稼働／保険・医療／デフレ／アベノミクス／再生エネルギー／尖閣・竹島／TPP・世界企業

私たちが一般市民はもとより、恐らくは政治家なども含めて、極めて身近な目先のことにとらわれ、将来や未来の問題に思いを致す余裕が失われている、とでも言えるだろうか。

ターナーの言う通り、私たちは間違いなく持続可能な軌道から外れている。

左下方に集中していることに気が付いた。

私たちは成長の限界を観念的には理解しているが、実際の行動には移せないでいる。成長の限界を感じながら、どうしても目先の経済成長を優先していることが分かる。

私は「成長の限界」という論文の名前は知っていたが読んだことはなかった。実際に読んでみると、そこに書かれた内容は、ターナーが検証し指摘したように、「現在の地球は悪夢のシナリオの軌道を突き進んでいる」と、再確認させられた。

私は農業関係者なので、関心の深い部分を見れば、実に単純な分かりやすいシナリオである。